



木童通信 vol.17

平成20年10月発行

木童 東京ショールーム

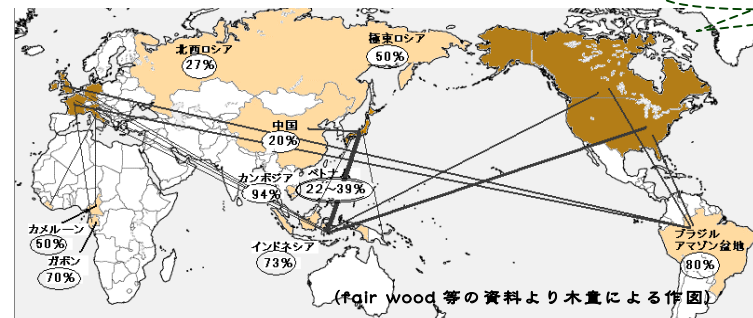
open 月～金 10:00-18:00 ±11:00-17:00
close 日・祝 (事前予約いただければ日祝の見学も可能です)
東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティ1F
TEL:03-5358-5125 FAX:03-5358-5126
URL:http://www.kodoh.co.jp E-mail:Tokyo@kodoh.co.jp

★輸入材を考える

テレビで、或るアフリカの国の話として、保護されるべき森林を生活苦から村民が伐採をしている場面を見ました。現地には中国の業者が駐在してその木材を買い付けていました。以前、長江で洪水が起こった時に、現地の人が「日本人が買いにくるから木を伐った。だから洪水が起こった」と言っているのを聞いて、何を勝手な事と憤慨しましたが、今は少し正しいのかもしれないと思っています。この番組ではその国の環境の変化を、水を蓄える森が無くなり、動物も減り、将来は人が住めない砂漠化が進むであろう...と、伝えていました。

輸入木材について木童が考える問題点は

1. やっぱり違法木材



G8 諸国の違法伐採木材の輸入と
主な生産国の違法伐採の推定割合 (2004年推定)

違法木材とは、「盗伐した木材」や「許可された量以上の伐採した木材」等を言います。インドネシアでは輸出される木材の7割が違法伐採です。日本に入ってくる輸入木材の約2割、1400万㎡以上が違法伐採された木材と言われています。国産材の伐採量は年間約1800万㎡程度ですから、その量の多さは驚くべき量と言えます。東南アジアの森林資源は近い未来、枯渇すると言われていて、洪水等の自然災害も近年増えていると報告があります。

ロシアでは、永久凍土の木が違法伐採されていて、自然に再生しない歯抜けの森林になっています。(切った跡の土地に日が当たり、凍土が融け、水溜まりが出来、そこに落ち葉等がたまり凍土に戻るまで何十年と掛かります) CO2 の削減に期待されている森林は、ブラジルの奥地だけではありません。このシベリアの森林は再生が難しいため、より保護されなければならない森なのですが、ロシア政府が認める伐採量の2倍の木材が流通しています。

2. 中国の発展による需要の拡大と中国の世界の工場化

つい数十年前までは、日本が世界中から「森林を食い散らかす害虫」として非難されていましたが、現在はそれに輪をかけて、中国が東南アジアを始め、世界各国から違法木材も含めて輸入しています。1998年に起きた長江の洪水を機に、自国での伐採を制限した中国の木材輸入は加速しました。日本や諸外国も安い労働力の恩恵を受けるため、中国に現地工場を造ったり、協力工場を求めたため、輸入し加工する量も倍々で増えていました。さらには、中国国内の需要も爆発的に増えています。14億の人間が突如、土間にベッドの生活から一戸建てやマンションにフローリングの生活に変わりつつあるのです。もちろん、建築だけに木材が使われている訳ではありません。トイレトーパーやコピー紙などの紙の消費が、拍車をかけます。

3. 地球の裏側から持ってくる必要性

ウッドマイレージという言葉が最近よく聞かれます。「木材を運ぶ距離×木材量」を言い、日本の木材輸入のウッドマイレージは380億kmにも達します。この量は木材輸入世界第一位のアメリカの4.6倍であり、環境先進国ドイツの21倍、世界でワースト1位の数字です。日本では、国内で消費される木材の約70%が輸入材であり、そのうち約40%を8000km以上離れたアフリカや南米等から輸入しています。100%自給出来るだけの森林資源を持ちながら、なぜ?? ドイツは森林資源が少なく輸入に頼る部分も多いのですが、近隣の森林国である北欧からの輸入なので、ウッドマイレージは高くありません。例えば、東京の住宅に、森林資源の多い九州や東北から木材を運んでも、ウッドマイレージは1/800や1/1000に減少します。製紙会社の原料を私達が国産材に替える事は難しいかもしれませんが、自分が住む家に国産材を使う事は選択出来ます。

まとめ

中東から運ばれてきた石油から造ったガソリンやその他の生活用品を使っている事は、棚に上げて言っているのかも知れません。ただ、何が出来るかと考えた時、木材を売る立場の木童が出来る事は、「良い国産材を、必要とする人達に届ける」、それと相互して「良い国産材を、生産する為の知恵や技術や情報を産地に伝える」事だと考えています。割り箸の問題と同じく、「物事の善悪」ではなく、「正しい現状を知った上での選択」を消費者自身に求められるようになってきたのではないかと思います。地球の為に、私たち自身の為に、出来る事を出来る範囲で...

★家づくりの現場から ～府中市A邸 設計：植本計画デザイン～

駅に近い立地ながら、敷地・建ぺい率に限りがあり、“空間を確保しながら木を見せる”ことが難しい条件の中、それを上手にクリアした住宅です。前面道路からは2Fのバルコニーを通して木の架構が覗き、外部に木を多用していないにも関わらず“木の家”であることが感じられます。少し掘り下げた形の1Fには広いワークスペース



が取られ、たくさんの収納も確保。住まい手さんには木童ショールームにも足を運んでいただき、実際に杉の床の感触を確かめて選んでもらいました。小さな子供さんたちが裸足で元気に走り回れる素材です

※完成見学会には多くの方に見学にご来場いただき有難うございました。10月にも構造見学会・完成見学会をそれぞれ予定しているので、ご都合のつく方はぜひ木の家を体感しにご参加下さい。



★家づくりの現場から ～東久留米市S邸 設計：U設計室～



先日、完成見学会に行ってきました。“太陽と風の恵みをたっぷり受けられる住宅”という印象を強く受けた住宅です。

1Fはダイニング・リビングのパブリックスペースに対して床暖房を入れたい、2Fは各個室のためどういう床材がよいか...。床材検討の段階で、設計の落合さんは施主のSさんに「実際に体感してみられては」と、木童のショールームに行く事をすすめて下さいました。

色々な床材を踏み比べていただいて、気に入られたのが幅220、厚み30mmある節有りの相生杉。ボリュームたっぷりの杉材は、夏はベトベトせず、冬は冷たくないものが良いというSさんのニーズにぴったり合い、2F個室部に採用が決定しました。冬場の朝ベッドから降りる時、夏場風通しのよい場所で寝転がって昼寝をする時、きっとこの床材にしてよかったと思っていただけたと思います。1Fには堅木のナラ材を張ったので、2Fの杉材との足触りの差が感じられるのではないのでしょうか。

★国産材の割り箸

木童通信 Vol.14 で国産材の割り箸をご紹介したところ、大変多くの反響をいただきました。国産材の需要を助ける為にも、引き続き訴えていく必要性を感じ、ショールームでも吉野杉の割り箸の販売を始めました。売れ行きは好調で、やはりきれいに個包装されたものよりも、たくさん入ったお得50膳入りが人気。源平(赤白)混じりも気にしないという方が多く、環境に対する一般の方の意識の高さを実感しています。価格では計れない“安心”を買ってみませんか? 流通品の割り箸との違いはすぐに分かるとおもいますよ!



左：源平 50膳入 750円
中：白 20膳入 550円
右：桐箱 12膳入 1,890円

木童NEWSライオンナップ

- コッパーハウス構造見学会 (木童通信 Vol.16 予告分日時決定しました。) 設計：藤森照信+大嶋アトリエ
○日時：10/19 (日) 13:00~15:00 ○場所：JR 国分寺駅より徒歩約10分
- 堀切菖蒲園の家完成見学会 設計：堀切不動産設計部 大澤公仁
○日時：10/26 (日) 11:00~16:00 ○場所：京成線堀切菖蒲園駅より徒歩約8分
○使用木材：宮崎県産オビ赤杉 (構造材)、長野県産しなの松 (床・床暖房)、石川県産能登ヒバ (浴室)、からパネル (階段・プレカット加工共)、岩手県産南部クリ (デッキ)、木童の桐油仕上げ
※ いずれもお申し込み頂いた方に、案内図をお知らせさせていただきます。
- 第53回企画展 9/29 (月) ~10/4 (土) 「藤沢周平のふるさと庄内の木で家をつくりませんか」木の家大すきの会 10/4 (土) 13:30~ セミナー「木の家・光と風のデザイン」参加者受付中。
- 第54回企画展 10/6 (月) ~25 (土) および 11/4 (火) ~29 (土) 「お父さんは建築家・巡回展」子育て経験を生かしたお父さん建築家の家づくりをテーマとした建築家5人展です。参加建築家は 荒木毅氏 落合雄二氏 高野保光氏 本間至氏 松原正明氏 いずれも人気の5人が競演!
- 第55回企画展 10/27 (月) ~11/1 (土) 「庄内の木で家づくり第2弾」木の家大すきの会 11/1 (土) 13:30~ セミナー「職人がつくる木の家」参加者受付中。
- 木童通信をHPよりダウンロードできるようになりました。バックナンバーをご希望の方、お知り合いに宣伝して下さい。ぜひご利用下さい。(郵送中止をご希望の方はご一報いただければ幸いです。)